

第2章 わかりやすい環境づくり

◇ 構造化とは

いつ、どこで、何を、どのくらい、どんなやり方であるのかを分かりやすいように、こどもの理解に合わせて環境や情報の意味を視覚的、具体的、個別的に調整します。視覚支援や環境の工夫を行うことにより、困っているこどもの理解を助け見通しを持って安心して行動できるようになります。このような工夫を構造化と言います。

◇ 視覚支援

聞いて理解するより目で見えて理解するほうが得意である、興味あることは理解しやすい、一度覚えたことは簡単に忘れないという特性の長所を生かし理解を助けるために視覚支援が有効です。又、今することや終わりの見通しがもてることで、すべきことに集中できたりやり遂げられるようになります。

視覚支援は日常生活のなかにもユニバーサルデザインとしてはいいこみ生活を便利に分かりやすくするのに役立っています。保育所でもどのこどもにとっても効果があり、生活に見通しをもつのに役立っています。

視覚支援のポイント

- ・絵や文字、写真などを対象のこどもの年齢、興味、理解の度合いなどに応じて作成します。
- ・こどもの状況に応じて、一連の流れがわかるものまたは、個々のカードの方が良いのかを見きわめます。
- ・視覚支援の周りにある情報は整理し、視覚支援に集中できるようにします。
- ・掲示したものは個別の状況に応じて当初のままにせず見直し変化させていきます。言語指示でわかるようになってからも次への見通しをもって行動する事を習慣化するために継続して使います。

◇ クラスルール

「話を聞く時はおしゃべりしません」など、クラスみんなで守る約束ごとはクラスルールとしてみんながいつでも見えるように提示します。支援対象のこどもばかりが注意を受けることなく過ごせるようになります。

◇ 言葉かけ、指示の出し方

- ・あいまいな言葉は使わず、具体的で簡潔、明快な言葉かけや指示を出します。
- ・こどものそばで適切な指示を出します。

第2章では視覚支援の工夫やポイント、保育室や所庭の構造化などを紹介しています。個別の状況に応じた具体的支援 P2 ～とあわせて活用してください。

生活の中で見通しをもつために

1週間・1日のスケジュールを表にして知らせます。個別の支援が必要なこともそうでないことも、その日の予定がわかることで、見通しをもって行動でき気持ちの安定につながります。

<1日の予定>



<週間予定>



予定表

朝、みんなで1日の生活の流れを確認します。流れがわかることで安心して過ごすことができます。

終わったカードは、裏返したり抜いたりしておくで終わったことがわかります。



これで何をするのか
わかって安心だな…

登降所の準備

こどもの状況や理解にあわせて手順表を示すと、視覚的に理解しやすくなります。



朝の用意手順表 ①

支援の必要なこどものロッカー横に掲示すると、準備しながら確認できます。壁に貼っておくことでみんなが見て確認できます。

一度に見えると情報が多すぎて整理しにくいこどもには、めくり式の絵カードを使いました。

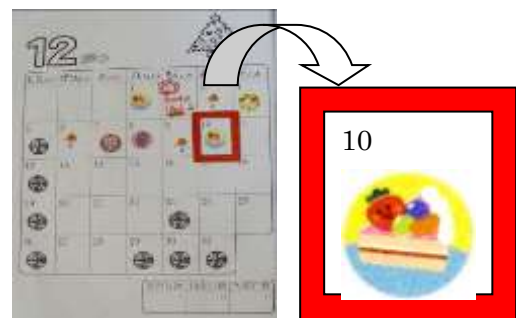
出席ノート

壁に掲示した出席ノートに赤い枠をつけると、シールを貼る位置がわかりやすくなりました。



準備カゴ ②

リュックから準備物を出してカゴに入れて持ち運びます。カゴに手順表が貼ってあり、順番に用意していきます。



生活の場面の中で



こんながあると、
わたしはいいなあ

クラス全体での約束事やルールを写真や絵を使い、目に見える形で伝えていきます。



トイレの手順

トイレでのズボンの上げ下ろしを手順を追って
わかりやすく表示しています。



アップリケ

衣服の着用マーク

衣服を着用するとき、前後
がわかりにくい場合は、衣服
の内側にアップリケやボタ
ン等をつけ、それが見えるよ
うに手足を通すと前後を間
違えにくくなります。



給食後の片付けの手順

忘れがちな食後の流れを
写真で表示しています。



キッチンタイマーは保育士のポケット
に入れておくと所庭あそびでも使え
ます

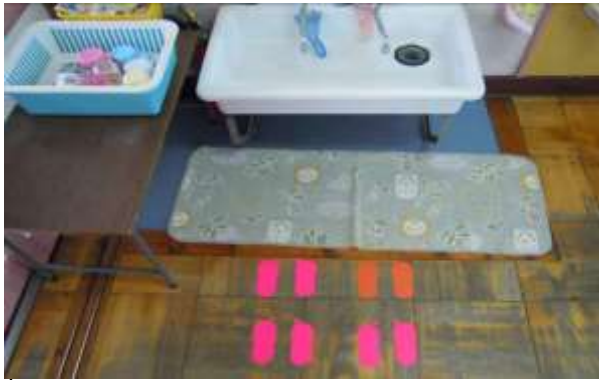


タイムタイマー ③

時間の経過が目で見えてわかるようになっています。キッ
チンタイマーは数字で残り時間がわかります。“0”にな
り音がなったら次の行動に移るなど、気持ちを切り替え
るときに使います。



砂時計や水時計を
をつかって歯みがき



順番 ④

床に足型があることで、並ぶことが理解でき、順番を待っています。



個人のマークを貼ったマット ⑤

いすを使用しない場面では、活動や場所によってはマットに名前やマークをつけて場所を明確にしています。

クラスのルールをつくり、
クラス全体で確認しています



「しゃべりません」カード



声の大きさ表 ⑥



保育室以外でも、視覚的にわかりやすい表示をしています。

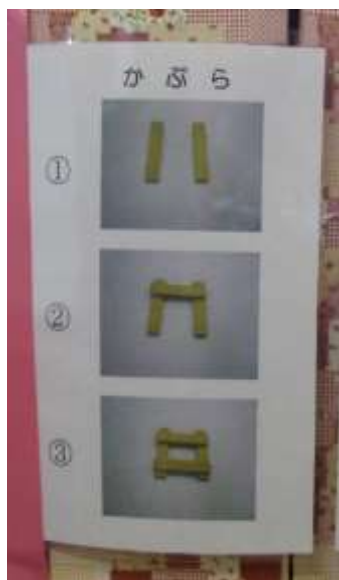


目標カード（がんばり表）⑦

シールを貼り、頑張ったことを目に見える形で表すことで、意欲につながります。

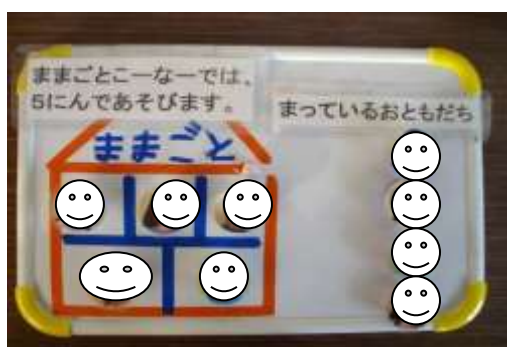
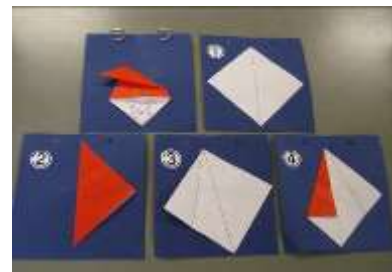
あそびの中でこんなサポートがあると助かるよ

ルールや手順を、写真やイラストで示すと、わかって活動しやすくなります。



手順表 ⑧

手順表があると、こどもがいつでも確認できます。終わりがわかると最後まで取り組みやすいです。



あそびのコーナー ⑨

各コーナーで遊べる人数や待っている友だちのことがわかります。

鍵盤ハーモニカ

鍵盤に色別のシールを貼り、音階を表示し、楽譜とも対応するようにしています。



コミュニケーション

目に見えないものは、理解しにくいものです。気持ちを表したり、伝えたりする時にも視覚支援が役に立ちます。自分の気持ちが目に見える形で表現されると、その絵や文字に気持ちが集中し、落ち着くことができます。また、気持ちを整理したり、客観的に考えるのに役立ちます。



どんなきもちカード ⑩

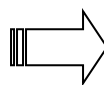
「うれしい」「かなしい」「こまったな・・・」こどもたちのいろいろな気持ちに気づき、共感しあえるツールです。

保育士のポケットにしおかせて…。言葉にならない思いを引き出すときに使います。



意思カード ⑪

写真やカードを使って、自分の意思を自発的に伝えるコミュニケーションのひとつとして使います。



コミック会話 ⑫

人の気持ちは目に見えないため、理解することが難しいものです。コミック会話は、この目に見えないものを視覚化することにより、理解を助ける方法です。

(人) と (ことば) と (気持ち) で状況や感情を表します。

今の状況をその場でメモ帳に絵で描くとわかりやすくなります。

行事

いつもと違うことや見通しが持てないことは不安です。今から何があるのか、どうしたらよいのかを具体的に知らせると安心できます。

<遠足>



下見に行ったときに活動をイメージし、写真をとって、情報収集しておきます。こどもが不安になる場面などを予測し、対処の方法を考えておきます。⑬



遠足の思い出を写真や文章で掲示していくと、記憶や体験を思い出し遠足の振り返りができます。

<運動会・発表会>



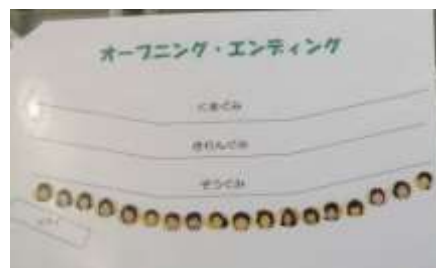
リレー

走っている途中でリレーのことを忘れてしまうこどもには、コーンに興味がある数字をつけると、最後まで走りました。



すわりますマット ⑭

どこで、何をやるのか具体的にわかるようマットを作り運動会や発表会の出番や待ち時間に使いました。



大勢の友だちの中で、不安になったり混乱したりしないよう全体がわかり、並ぶ位置がわかるようにします。⑮

姿勢が安定しないこどもに



椅子の工夫

足を床につけて座ると安定します。足置き台を置き、こどもに合った椅子の高さに調整します。



筋力が弱く、いすからずり落ちやすいこどもは、すべり止めシートや肘おきをつけると安定しやすくなります。

便利なグッズ



三角鉛筆・鉛筆グリップ

グリップを使うと持ち方が安定し、筆圧もしっかりとします。他にも色々な形のものがあります。



箸

簡単な指の動きで操作ができたり、正しい持ち方ができるなど、色々な箸があります。



はさみ

刃が大きく開き、開閉がスムーズなはさみやバネばさみなどを使用すると、活動がスムーズになります。

落ち着けるコーナー ・ あそび

対象児の好きなおもちゃを用意して
ひとり遊びを保障します。



ひとりでじっくり
あそぶと落ち着く
なあ



イヤーマフ ⑩

※聴覚過敏のあるこどもは外からの音をシャットアウトすることで落ち着きます。

動きを目で追ったり、手指を使ったり、いろいろな感触を感じたりして、
こんな遊びやおもちゃであそんでいます。



トレインカースロープ



玉の塔



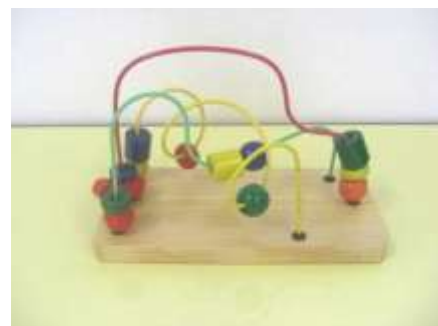
はしご人形



玉おとし



おはなし組木



ワイヤーメイズ



ウォータータイマー



ペットボトルで手作り

水のりの中に水を入れ
ビーズやスパンコール
など光るものを入れます。
中の物がゆっくり
動く様子やキラキラ光
る感触を楽しめます。

身近なもので 手指を使ってあそぶ



洗濯ばさみ



ホワイトボード



ストローおとし



ひもとおし

友だちと一緒にアイロンビーズあそびがしたかったこどもに準備しました。一緒に遊べるのがうれしかったようです。



ビーズすくい

砂遊び



排水溝の穴に小石を落としていたこどものあそびを転換するために、じょうごを使ったあそびを準備しました。落ちていく砂の様子を眺めてあそんでいました。

感覚あそびなど



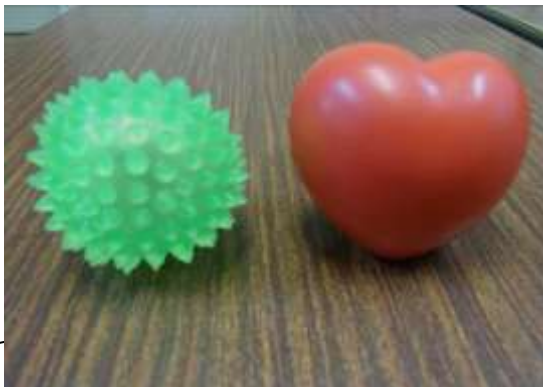
ボールプール

胸のところまでボールで包まれると心地よい子どももいます。



人工芝

感覚が鈍感なタイプの子どもには『足裏に強い刺激をいれることで活動的になる』とアドバイスをもらいあそびのなかにとり入れています。



ボール

子どもが落ちつく感触の一例。硬さ、感触などは子どもに合わせて選んでください。



緩衝材



イヤーマフ ⑩

聴覚過敏がある子どもが、身のまわりの音をコントロールするのに役立ちます。

感覚過敏を考慮して



粘土あそび 型抜き

苦手な感触のものは直接触らないで遊べる工夫をします。
※製作ではスティックのり、スタンプ、タンポなどが便利に使えます。

保育室・所庭の環境づくり

保育室の構造化 4歳児室



粘土コーナー



作り方がわかるように
写真をはっています。



パズルコーナー



朝の会で一日の予定を確認します。座る
場所は個人のマークをはっています。



グループごとでお絵かき
ファイルをわけています。



自分で色鉛筆を出してきてお絵
かきやぬり絵を楽しみます。



ブロックを使わない時は
カーテンを閉めています。



ブロックを使う時は
カーテンを開けます。



保育室の構造化 4歳児保育室

* Z児は支援対象児童（精神発達遅滞）

Z児がゆっくり過ごしたい時は、この場所で遊ぶことが多い



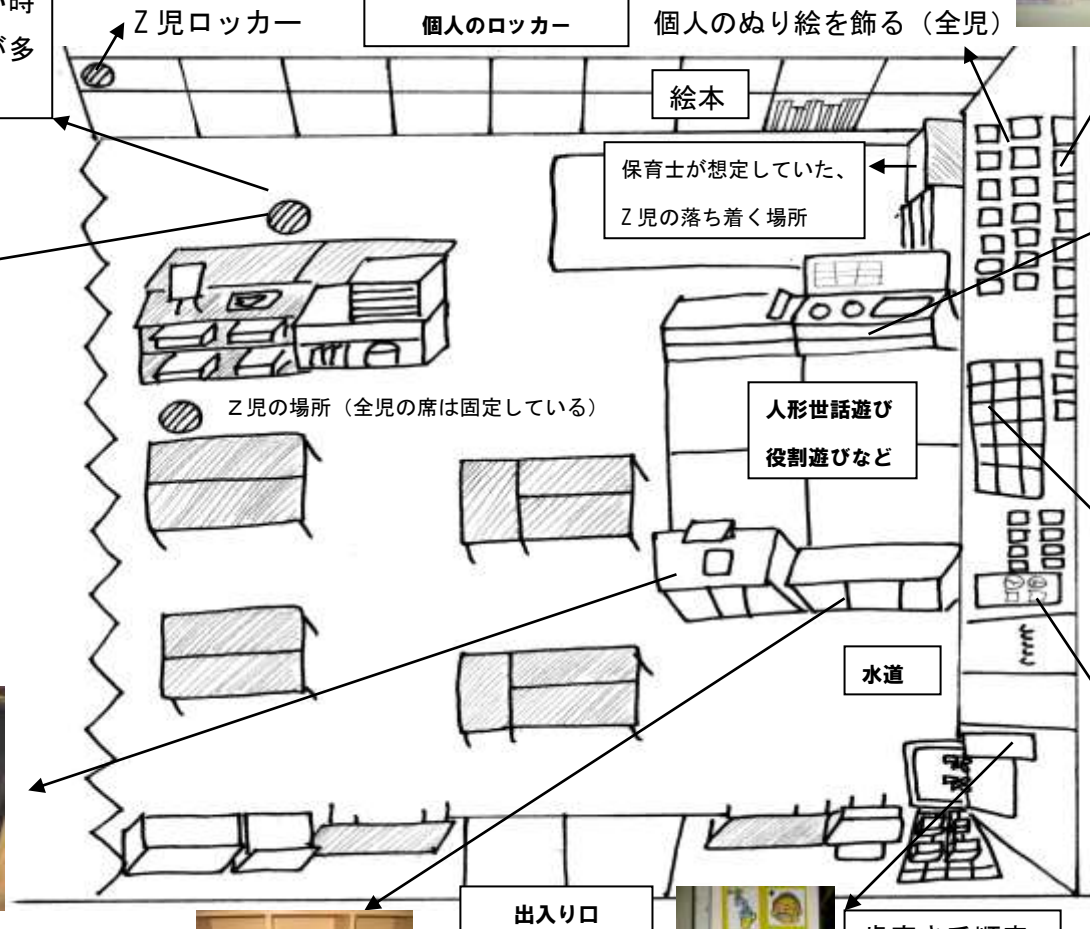
Z児の落ち着く場所
保育士が想定していた場所ではなく、みんなが見え少し離れた所が落ち着ける場所だとわかった



ぬり絵・ホワイトボード・カルタ・ミニブロック
手先を使うおもちゃ



ラキュー



誕生児写真
誕生表として使用



役割遊びの具材
使うときは、一人分で使うことをルール化する方がよい場合もある



大好きブック（全児分）



所庭環境の構造化



上のカゴにボール
下のカゴにパカポコ
左のスタンドにフープ



スコップ・カップいれ



ザル・バケツいれ



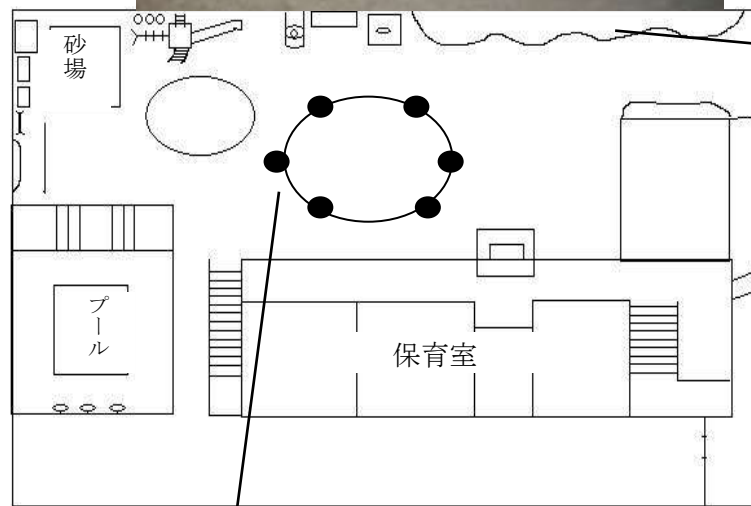
全体図



保育士の見守りのない時は「つかいません」表示をしています。



三輪車交代の駅



このような表示で遊び場所を知らせているところもあります。



三輪車の道の目印コーン

どこでどんなあそびをするのがはっきりわかり、トラブルもなくなってきました。

